

3-6 清水平～生椿の山の散策コース（車：清水平～生椿入口：旧トキ拠点）

清水平は、最初のトキ保護センターが設置された場所で、NPOが保全活動を行っています。
3-5で紹介した生椿との間は、山道でつながっており、山の自然を体験します。

清水平は、旧トキ保護センターが設置された場所で、現在もビオトープとしてNPO法人トキどき応援団が、ボランティアで保全活動を行っています。生椿は、3-5で紹介したように、現在は人が暮らしていませんが、田畑では今も耕作が行われ、トキの野生復帰のためのビオトープづくりなども盛んです。清水平と生椿の間は、杉林や自然林が続いている山道で、人が通れるだけです。かつて、高野高治さんが毎日のように通った道を歩きながら、山の自然、人と山の関わりについて体験します。案内人は、NPO法人トキどき応援団や、山にくわしい方が行います。

■NPO法人トキどき応援団と清水平

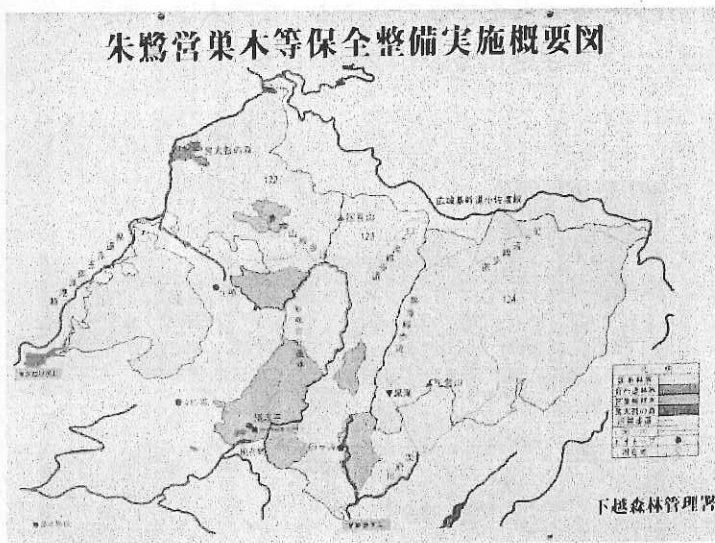
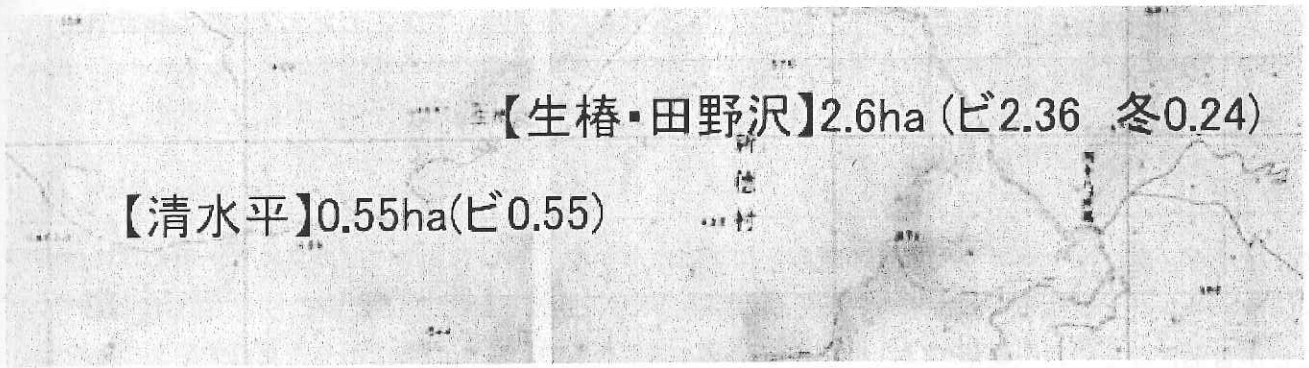
トキどき応援団は新徳地区にある清水平でトキビオトープ（トキの餌場）の維持管理を行なっています。清水平は標高約400メートルの山中にあり、かつてはトキ保護センターがあったところです。それ以前から野生のトキの餌場になっていました。トキ保護センター移転後、荒れ果てていく清水平を見て、この地で行なわれていたトキ保護増殖の歴史を風化させてはならないという思いと、放鳥されたトキが再び餌を捕りに舞い降りてくれることを信じて、トキどき応援団は平成14年から毎月1回の作業を継続して行なっています。



作業はトキの餌場としてどのような環境が望ましいのかを念頭において行っています。まず、田んぼに常に水が張られているように手入れします。水が流れてくる水路の掃除とあぜ塗り、あぜの水口の修理です。トキの餌であるドジョウなどの小魚やタニシ、水生昆虫などは水があることで増えていきます。水が張られていると雑草が育ちにくいという効果もあります。それから、草が伸びすぎるとトキがエサを捕りにくいので、田んぼの中も周囲のあぜも草刈を行ないます。刈った草は何箇所かに集めて積んでおくとトキの大事な餌である陸生昆虫のすみかになります。長靴で田んぼの中に入り草を泥の中に踏み入れるだけでも除草になります。また、泥をしっかりと踏みしめることで田んぼの水漏れ防止にもなります。（佐渡市市民環境大学講義より）

必要な道具：ハイキングの服装、歩きやすい靴、タオル、水筒。たも網、プラスチック水槽、虫取り網、虫かご、双眼鏡など。

所要時間：トキ交流会館からの往復時間、往復、休憩、観察、遊び時間を入れて4～5時間。



■ねらい

車の走らない、人が通れるだけの山道です。かつて、集落と集落はこのような山道で結ばれていました。約2時間～3時間の山道歩きや、そのところどころにある道しるべなどを通して、かつての生活を感じ取るとともに、山でしか得られない自然の「音」「湿度」「におい」「感覚」などを体験することができます。また、そのような場所でも、林業などが行われていることを感じ取らせます。